

# 国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校

教諭 〇〇 〇〇

1 日時 平成24年1月〇〇日

2 学年・組 第1学年〇組

## 3 指導事項

(1) 書くこと ア

- ・ 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(エ)

- ・ 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。

4 単元名 「たのしかったね、一年生」

## 5 言語活動

- ・ 新しい一年生に教えてあげたいことをカードに書くこと

## 6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
新しい一年生に伝える文章を書くことに、意欲的に取り組もうとしている。	新しい一年生に、小学校生活の魅力を伝えるために、一年間の出来事の様子やそのときの自分の気持ちを思い出している。	長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使っている。

## 7 単元について

### ○ 児童の状況

- ・ 関心・意欲・態度：本学級の8割の児童は、「あのねノート」を書くことが好きであると答えている。上手に書けたら、学級通信で紹介してもらえるということが励みになっていると思われる。また、ほとんどの児童が、以前より上手に書けるようになってきたと感じているので、達成感ももっているものと思われる。好きではないと答えた残り2割の児童については、書くことがなかなか決まらなかったり、書くのに時間がかかったりすることが理由と考えられる。
- ・ あのねノートを書くこと：6月から、「あのねノート」に自分の体験したことを書き始めた。かぎ（「」）を使って書いたり、「はじめに」「つぎに」「おわりに」と接続語を使って順序に気を付けながら書いたり、毎回1つずつ課題を与えている。書き始めは教師が示し、その後を自分で考えて書いているが、だんだんと上手に自分で書きたいことを見付けて書くことができるようになってきた。

しかし、自分のしたことや思ったことをすぐ書き進めることができる児童と、何を書いたらよいか思い付かずなかなか書き進められない児童との個人差が大きい。

- ・ 伝えたいことを書くこと：本学級の児童は、これまでに、気付いたことや自分の体験したことを文章に書くという学習をしてきている。その中で、メモをもとに文章を書くという学習もしてきている。しかし、伝えたいことを短い文章で書くのは初めてである。学校のことを知らない相手に出来事の様子を短い文章で詳しく伝えるにはどうしたらよいかを考えさせていきたい。
- ・ 題材に必要な事柄を集めること：「わたしのはっけん」の学習では、実際にカメを観察しながら五感を働かせて、書くための事柄を多く集めるという経験をしている。また、「じゅんじょよくかこう」の学習では、学校行事の□□祭のことを書いた。行動の節目が自覚できるよう、□□祭を選んだ。「はじめに」、「そのあとで」、「さいごに」と、順序を意識しながら、その場面ごとに絵と吹き出しをかいながら文章を書くという経験をしている。
- ・ 表記：助詞や句読点や長音、拗音、促音、撥音などが正しく使えていなかったり、かぎ（「」）の使い方が十分でなかったりする児童もまだ見られる。これらを定着させるために、視写を多く取り入れるようにしている。

#### ○ 教材の価値

- ・ 相手意識、目的意識を明確にすること：本教材「たのしかったね、一年生」では、入学してからの一年間を振り返り、新しい一年生に教えてあげたいことを選んで文章に書く活動を行う。これまでに学習してきた「書くこと」の教材は、友達や教師、おうちの人などを読み手と想定したものであった。本教材では、新しく入学してくる一年生に向けて文章を書く。学校生活の「先輩」として、自分たちが経験したことを文章に書いて教えてあげるというこれまでにない設定に、児童は意欲を感じることであろう。相手意識、目的意識を明確にして書くことができる教材である。
- ・ 「書く」力を総合的に生かすこと：したことや見たこと、思ったことなどを書いたり、言ったことを取り入れたりするなど、これまでに身に付けてきた「書く」力を生かすことができる教材である。また、文章を書く中で、句読点の打ち方や助詞やかぎ（「」）や長音、拗音、促音、撥音などの使い方も再確認していくことができる。学習のまとめとなるこの時期に、一年を振り返り、「書く」力を総合的に生かしていける教材であると考えられる。

#### ○ 指導の工夫

- ・ 相手意識、目的意識をもたせること：読み手が新しく入学してくる一年生であるということをしっかりと念頭において、文章を書かせていきたい。児童が伝えたいと思うことが必ずしも新しい一年生にとって、小学校が魅力的だと思えるような内容であるとは限らない。よって、新しい一年生が読んで、小学校は楽しいところだ、幼稚園や保育園とは違って驚いた、入学するのが待ち遠しい、わくわくすると思えるような文章が書けるように助言していきたい。また、出来上がったカードは、「楽しかったこと」、「幼稚園や保育園と違うこと」、「新しく勉強することでわくわくすること」の3つに区分し、入学式に掲示することを伝え、目的意識もしっかりともたせたい。
- ・ 書くことへの意欲を高めること：まず導入時に、この一年間の写真のスライドショーを見せることで、楽しかった、嬉しかったという思いをしっかりと呼び起こして、書く意欲を引き出したい。また、新しい一年生に、小学校でのことを教えてあげるというように、相手意識、目的意識を明確にすることも、書く意欲を高めていきたい。
- ・ 題材に必要なことを選ぶこと：入学からこれまでの出来事を振り返り、たくさんのことを思い出させたい。そのために、写真、あのねちょう、生活科ファイル、学習ファイルなどを手がかりとする。

また、書きたい題材を選ぶ際には、特定の出来事に偏らないよう、相手意識をもたせて選ばせたい。さらに、絵と吹き出しをかくことで、そのときの様子や気持ちをしっかりと思い出させたい。周りの様子や、そのとき言ったこと、自分の気持ち（表情）も自然と表現されてくるはずである。それらを文章を書く手がかりとさせたい。

### 8 単元の学習と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動 (評価方法)	評価の観点		
			国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
一	1	新しい一年生に教えてあげたいことを文章に書く学習を知ることを知る。(発言・行動観察)	○		
二	2	入学してからのことを振り返り、心に残っていることを話し合う。(発言・行動観察)		○	
	3	新しい一年生に教えてあげたいことを話し合っ、分担を決める。(ノート・発言・行動観察)		○	
	4	教科書の文例では、出来事についてどのように書かれているかを理解する。(発言)		○	
	5	そのときのことを思い出して、絵と吹き出しをかく。(ワークシート)		○	
	6	ワークシートの絵や吹き出しをもとに、様子や気持ちを思い出し、新しい一年生に伝えるように文章を書く。(ワークシート) (本時)		○	
	7	書いた文章を読み返して修正し、カードに清書する。(カード)		○	○
三	8	友達のカードを読み、良かったところを伝え合う。(発言・行動観察)	○		

### 9 目標（書く能力 二次6時）

- ワークシートの絵や吹き出しをもとに、様子や気持ちを思い出し、新しい一年生に教えてあげる文章を書くことができる。

## 10 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
1. 本時のめあてを確認する。	○ 教材文を読んで、書く内容を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     入学がたのしみになるように、あたらしい一年生におしえてあげる文しょうをかこう。                 </div>		
2. 分かりやすく伝えるために、書いたらよいことを確認する。	○ ヒント ・ いつ ・ どこで ・ だれと ・ どんなこと ・ そのときのようす ・ いったこと ・ じぶんのきもち など	
3. 新しい一年生に教えてあげたいこと（前半：説明）を文章に書く。 ・ 小学校は楽しいところだと思えるようなこと ・ 幼稚園や保育園とは違って驚いたこと ・ 新しく勉強することでわくわくすること	○ 教師が、絵と吹き出しをもとに文章を書いて、書く手順を示す。 C：ヒントを確認する。 ○ 早く書けた児童には、書いた文章を読み返すことを伝える。	
4. 新しい一年生に教えてあげたいこと（後半：メッセージ）を文章に書く。 ・ 入学するのが待ち遠しくなること	○ 教師が、絵と吹き出しをもとに文章を書いて、書く手順を示す。 C：ワークシートに書いた教えてあげたいことを確認する。 ○ 早く書けた児童には、書いた文章を読み返したり、相手の気持ちを想像して「○○○へ」の部分をつけ加えたりすることを伝える。	A：メッセージに根拠を挙げて、入学が楽しみになるように、新しい一年生に教えてあげる文章を書いている。 B：入学が楽しみになるように、新しい一年生に教えてあげる文章を書いている。 (ワークシート)
5. 書いた文章を発表したり、聞いたりする。	○ 聞くときの観点を確認する。 ・ 目的意識 ・ 相手意識	
6. 本時のまとめと次時の予告をする。	○ 次時には、書いた文章を清書して、絵もかくことを伝える。	